

2022-23年度RIテーマ  
IMAGINE ROTARY  
イマジン ローターリー



RI会長  
ジェニファー・ジョーンズ

## TAKEHARA ROTARY CLUB WEEKLY BULLETIN 竹原ロータリークラブ週報

会長	板場 英行	会計	土伏 英晴	直前会長	福本 博之
会長エレクト	宮本 和彦	副会計	野田 眞治	管理運営	久藤 孝仁
幹事	木村 安伸	S A A	宇都宮勝博	会員組織	堀越 賢二
副幹事	中川 康子	副S A A	三好 静子	奉仕	吉本きよ子

事務局／〒725-0021竹原市竹原町3591  
TEL／0846-22-7570 FAX／0846-22-7651  
E-mail／rc-take@estate.ocn.ne.jp  
http://www.takehara-rc.com

例会日／毎週木曜日12:30~13:30  
例会場／大広苑 TEL(0846)-22-2970

本日のプログラム 11月17日

次週のプログラム 12月1日

年次総会  
クラブアッセンブリー

誕生祝・各会員各記念日祝  
誕生月該当者会員卓話

### 【2022年11月10日 第2753回例会記録】

- 点 鐘
- 国歌斉唱
- ロータリーソング：奉仕の理想
- 4つのテスト（大森 寛会員）
- ゲスト：米山奨学生 丁 若沼様
- 会員数：14名 □免除者：1名
- 出席者：10名 □欠席者：1名
- メイク：2名 □出席率：92.30%



米山奨学金11月分 丁若沼さんへお渡し

### 記念日代表者謝辞

11月 宮本和彦会員

### スマイルボックス

- 会員誕生日…宇都宮
- 結婚記念日…大森、宮本、土伏
- 特別スマイル
  - ・2022-23年度地区大会において、地区功労賞（2710地区G9ガバナー補佐）を頂きました。ありがとうございました。（中川康子）
  - ・地区大会100%出席41年表彰を受けました。ありがとうございます。（大森 寛）



## クライングボックス

- ・10月27日の月見例会でロータリーネームプレートの着用をしていませんでした。（木村安伸）

## 地区大会表彰



大森会員

地区大会連続出席100%41年表彰状を授与

## 幹事報告

【幹事 木村 安伸】

- ・ロータリーレート  
11月 1\$ = 148円
  - ・2023-24年度ガバナー補 佐任命について  
G9ガバナー補佐  
三原RC 田阪 潤様
- <お知らせ>例会終了後定例理事会

## 会長の時間

【会長 板場 英行】

会員の皆さんこんにちは。11月霜月、7日の立冬が過ぎ紅葉狩りなどの行楽地への人流増報道に、通常活動が少しずつ再開されてきたと感じる中、コロナ感染第8波の兆しが見られる現今です。皆様ご清祥のことと拝察します。予想を覆すアメリカの中間選挙、ウクライナの攻勢が伝えられるロシアとの戦い、相次ぐ国務大臣の辞任に揺れる政局、一時期の円安状態からの脱却に一安堵など、時勢は刻々と流れています。一昨日は、皆既食と惑星食が同時に発生するという非常に稀な現象が見られました。今回の皆既食は天王星が月の裏に隠れる天王星食であり、日本で皆既食中に惑星食が見られるのは1580年以来442年ぶりで、極めて珍しい天体ショーを見ることが出来ました。次回は322年後の2344年に土星が月の後ろに隠れるということで、数百年に一度の自然現象に陶醉した日でした。

## 誕生日会員卓話



宇都宮勝博 会員

本日は卓話の時間をいただき有難うございます。

今回のテーマは「CO2」について、最近の新しい技術と地元竹原市の関係について

少しお話させていただきます。

先日、久藤会員よりD.E.IIについての卓話がありましたが、その中にSDGsとD.E.IIについての一節があった、SDGsはやや企業や金融機関等に寄った動きとなっているが、むしろD.E.IIの方が私たちの身近なテーマではないかとの内容だったかと思えます。確かにそのような感覚については私も同感なのですが、しかしSDGsの中でも特に地球温暖化の問題については、急激な気候変動による豪雨災害の発生や気温の上昇による熱中症の多発など、私たちの生活においても直面する危険が懸念されていることはご承知の通りと思います。そしてその主な原因とされているCO2の排出の問題ですが、実は最近竹原市の周辺で急速に新しい動きが出てきました。

というのは、2012年に建設が始まった大崎上島にある「大崎クールジェンプロジェクト」において、2019年から第2段階のCO2の分離・回収の実証実験が進んでおり、最新鋭の発電設備の運用とそこから排出されるCO2を分離して回収するというNEDOの事業が動いています。

このNEDOの事業は国の予算で取り組みが進められている国家プロジェクトであり、実際に回収したCO2をコンクリートブロックに封じ込めて販売する事業も一部始まりました。

さらに広島県もこの動きに連動するべく「広島県カーボン・サーキュラー・エコノミー推進協議会」を2021年5月に設立し、産・官・学が連携してこのカーボンリサイクルを社会実装するための研究拠点として大崎上島を設定しました。

またそれと併行して、広島大学においても「カーボンリサイクル実装プロジェクト研究センター」が設置されて幅広い専門家が結集しています。

そしてこれらの動きを強力に推進するために、先日、湯崎知事が「カーボン・サーキュラー・エコノミー」の実現に向けて、「広島県がファーストペンギンになる」と宣言したのです。

その上さらに直近では、国のカーボンリサイクル政策の推進を目的として、一般社団法人「カーボンリサイクルファンド」が立ち上がりました。

この組織には、国の機関や研究者および全国の関連企業と関連する自治体などが参加していますが、

前述の大崎クールジェンプロジェクトの事業や広島県の動きを考慮した結果として、大崎上島の対岸である「竹原市」をモデル地域に設定して具体的な取り組みを開始することになったのです。

このように、大崎の国家プロジェクトが中心となり、各専門分野の研究者や企業が結集して地元「竹原市」をカーボンリサイクルの一大拠点として動かし始めましたので、地元の企業や市民もしっかりと理解して応援し、参画するべきだと思います。

竹原市が全国をリードする拠点となります。皆で盛り上げましょう！